

## 2010 年度 JFA-47 都道府県協会訪問会議 報告

5月14日青森県、埼玉県、徳島県にてスタートした「JFA-47 都道府県協会訪問会議」が、7月19日石川県、滋賀県、高知県にて最終日を迎え予定通り終了した。2004年度より夏休みを中心に会議を実施してきたが、年度初め早い段階での JFA と都道府県協会の情報共有と意見交換を目的に昨年と同じく5月より実施。今年はワールドカップが6月に開催されたこともあり、5月と7月に分けての実施となった。

出席者については、都道府県協会から理事会メンバーを中心に育成年代の関係者、JFA では各部の部長が47都道府県を分担、リーダーとして訪問し、PHQ、技術部(都道府県によっては他部署から)から代表者が1名ずつ出席する形式とした。

なお、今年も事前に都道府県協会にアンケートをとりながらの実施となったが、千葉県協会は日程が調整できなかったため実施せず、また東京都協会では5月の東京都サッカー協会理事会後に時間を設け、PHQ から伝達事項(2011年度以降の計画)のみを説明した。その他の45FAについては通常通りの訪問会議を実施することができた。

- ミーティングは約2時間～2時間30分を目処に進められ、JFA パートでは技術部から「育成年代の指導者」について、PHQ から「2011年度以降の基本還元金とPHQ各種支援制度計画」についてのプレゼンテーションおよび意見交換を行った。後半では、昨年度は都道府県協会におけるディスカッションを行ったが、議論がまとまらなかった事例が散見されたため、今年度は都道府県協会独自のテーマで意見交換等を行った。

今回のトピックスとして以下の点が挙げられる。

- 「育成年代の指導者」  
各種会議等、多くの場面で「育成年代」に関する情報共有を行ってきたが、改めて技術部より都道府県協会の理事他関係者向けにプレゼンを行った。育成年代の指導者の重要性や意義が改めて理解されたと思われる。
- 「2011年度以降の基本還元金とPHQ各種支援制度計画について」  
現行の支援制度が2011年度以降変更されることに伴い、変更内容についてPHQからプレゼンを行った。現行の所謂紐付き補助金を廃止し、包括した金額を支給し都道府県協会に裁量権を与えるという内容であったが、都道府県によっては、事務局経費に使える金額が大幅に減ることを心配する声もあった。
- 「会議を終えて都道府県協会から寄せられた声」  
会議終了後、例年通り、専務理事をはじめ出席者へのアンケートを実施。概ね「満足できた」との回答、来年度以降の開催も希望との声も多かった。しかしながら、「育成年代の指導者」テーマについては内容が抽象的、また「2011年度以降の基本還元金とPHQ各種支援制度計画」テーマについては事務局以外の出席者が内容を理解しづらかったという意見もあった。その他にはディスカッションの時間ももっと欲しかったという要望もあった。訪問会議テーマの内容等も改善すべきとの意見も多く、来年度にむけ会議開催進行や内容等、再考すべき課題も残った。

以上